

## 愛知医科大学への昇格 — 名大の100周年① —

2019(平成31・令和元)年の創立80周年、2021年の創基150周年など、周年記念が続く最近の名大ですが、2020年には2つの100周年があります。その1つは、前身学校の大学昇格100周年です。

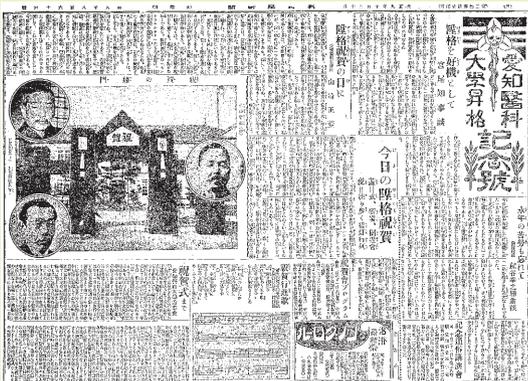
医学部の前身学校は、1871(明治4)年に設置された名古屋県仮病院・仮医学校から発展し、1903年には愛知県立医学専門学校(愛知医専)になりました。当時の大学は、通称はともかく、法律上は総合大学たる帝国大学のみとされていました。それが、1918(大正7)年12月公布(翌年4月施行)の大学令により、公・私立大学や単科大学も認められるようになりました。

ところが、1918年12月に原敬内閣が発表した高等教育機関の拡張計画では、医学専門学校の大学昇格は官立(国立)の5校のみとされ、公立医専については言及されていませんでした。これを見た愛知医専は危機感を強め、昇格運動が急速に盛り上がったのです。

その先陣を切ったのは生徒たちで、1919年1月に生徒大会を開催し、大学昇格を目指す決議のうえ、市民に世論喚起の檄文を配布しました。教職員や卒業生等からなる校友会も、同月に昇格期成同盟会を組織し、県会や名古屋市会に働きかけました。新聞を中心とするジャーナリズムもこれを全面的に支持しました。

当初の昇格運動は、官立移管と大学昇格を同時に目指すものでした。1919年2月には、この問題を審議するための臨時県会が開催され、移管昇格のために100万円を国へ寄附する議案が可決されました。100万円は、当時の県財政の2割に近い大金でした。しかし、文部省は官立移管には否定的でした。

愛知医専の山崎正董校長らは官立移管にこだわりを見せましたが、生徒たちの熱心な行動が、運動を現実的な公立昇格の方針へ転換させました。そして1920年6月、県立愛知医科大学への昇格が実現したのです。



- 1 昇格祝賀会と提灯行列が行われた1920年10月20日の「名古屋新聞」(中日新聞の前身)。また、この日の同紙は、「愛知医科大学開校を祝して」と題する論説を掲載した。中日新聞のもう1つの前身である『新愛知』も、この日に1頁を割いた特集を組んだ。
- 2 昇格祝賀会翌日の10月21日から25日にかけて、校内縦覧会が行われた。写真は、それに入場するため校門前に並ぶ人々。
- 3 校内縦覧会の展覧会(心臓科の展示室)。そのほか、講演会、美術展覧会、音楽会なども行われた。
- 4 昇格記念絵葉書。左の写真の愛知医専正門は、現在も鶴舞キャンパスに遺構が残っている(国の登録有形文化財)。



BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

### 名古屋大学基金のご案内

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



### 新型コロナウイルス感染症対策緊急学生支援基金ご支援のお願い

現在、新型コロナウイルス感染症が世界中で蔓延しており、健康医療は言うに及ばず、私たちの社会活動に広範かつ深刻な影響を及ぼしております。名古屋大学の学生への影響も甚大であり、学ぶ意欲をもちながらも困窮している学生の支援や、遠隔授業等の学習環境整備により、質の高い教育活動を維持するため、ご支援をお願いいたします。

Webでもご寄附を受け付けております。



<https://fundexapp.jp/nagoya-u/entry.php?purposeCode=110000>

ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office (DO室) まで(電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp) をお願いいたします。

詳しくはホームページをご覧ください。

アクセスはこちらから

名古屋大学基金

<https://kikin.nagoya-u.ac.jp/>

